

公表

## 事業所における自己評価結果

ムック株式会社 放課後等デイサービス わいわいプラス清新教室  
児童発達支援管理責任者 南雲雅矢 事業所番号 1452602632

事業所名	放課後等デイサービス わいわいプラス清新教室				公表日 R7年2月2日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	のびのびと身体を動かして遊べるスペース、ゆったりと落ち置いて過ごせるスペースにエリアを分け、個々の居場所を確保している。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0		適切ではあるが送迎ドライバーがいると、より手厚い支援が出来て良い。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	清掃や消毒を徹底している。 一人ひとりが居場所を選んで過ごせるように配慮している。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	食事や学習など、気持ちや特性に応じて個別で取り組める環境を整備している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	ケース会議やミーティングの時間を大切にしている。	非常勤さんは出勤の時間が異なるため実施できない日もあるので、共有ノートなど作れるといい。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	今年度開所のため、今回初めて機会を設けた。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	全員の意見を募り、働きやすい環境を作るよう努めている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2		運営指導等はまだ実施されていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0	月一でのわいわいプラス合同オンライン研修会に参加し、事例検討や実践報告等を行っている。	強度行動障害研修等の外部研修を受ける機会があると良い。（キャリアアップにもつなげていきたい。）
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	HPにて公表している。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0	入所時、6ヶ月経過時に必ず実施している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	全員で児童一人ひとりの特性を共有し、同じ方向を向いた支援を行えるよう会議の実施に努めている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	上記の通り。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	理解に努めながら計画の作成を行っている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	職員間ミーティングや、児童、保護者への希望等を反映した内容を行うようにしている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	日替わりで様々な活動を行っている。	

供 託	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	集団活動、個別活動とでプログラムを特性によって分けて実施している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	常時行うよう努めている。	非常勤職員は勤務開始時間が異なるため、送迎開始時間の都合によっては実施できないこともある。その場合は支援が始まり落ち着いた時間に実施している。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	送迎から戻り、退勤まで時間に余裕がある際は実施することもあるが、たいていは翌日に振り返りを行っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	登室児童一人ひとりの毎回の支援記録を必ず記入している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	6ヵ月ごと（必要であれば前倒し）に必ず実施している。対面が難しい場合は電話での面談も柔軟に行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6	0	日替わりで様々な活動を行っている。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0	やらされ感のない支援を心掛け、自分で活動を選んで楽しめるように配慮している。 (おやつの種類、遊び、活動の内容等)	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	児童発達支援管理責任者が参画している。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	協力医と定期的に情報共有を行っている。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0	児童の所属先の学校と定期的に情報共有の場を設けている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	児童発達支援事業所との定期的な情報共有を行っている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	該当児童が現在はまだいない。	今後に備え、各事業所との事前の連携を図っていきたい。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		研修の機会がないため、今後参加できるようにしていく。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5	1	土曜日や長期休み期間に児童館に遊びに行く機会を設けている。	交流会等は実施できていないので、機会を設けていきたい。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4		実施できていないため、今後検討していきたい。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	送迎時やオンラインでの相談支援の機会を大切にしている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	家族支援の面談をご希望に応じて実施している。	保護者懇談会などは、就労や家庭の都合により参加を希望されない保護者様も多く、まだ実施が出来ていない。
機 構 の 連 携	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0	ご契約時や改定があった際、希望があった際に必ず説明を行っている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0	丁寧な説明と同意、署名をいただいている。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	ご希望があった際や、定期的な相談支援の機会を大切にしている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	4		保護者懇談会などは、就労や家庭の都合により参加を希望されない保護者様も多く、まだ実施が出来ていない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0	適切に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	ブログやインスタグラム、HP等での情報発信の他、毎回LINEにて児童の活動の様子と写真をお送りしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	個々に応じて丁寧な対応を心掛けている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		地域との交流の機会が少ないため、今後拡大していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	適切に行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	適切に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0	全員で共有し、配慮事項や注意についてしっかりと周知している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		アレルギー児は現在はいないが、入所面談時には必ず確認するようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0	作成と職員全員への周知を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	作成と周知を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0	小さなことでも積極的にヒヤリハットを作成共有し、事故や危険の未然防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	定期的な研修の他、新規で職員が入職した際の研修機会も大切にしている。 事例検討や虐待早期発見チェックリストの活用を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1		